

長期不妊治療患者に対する予期不安緩和への支援

～「治療終結を考えているあなたへ」のパンフレット作成を通して～

医療法人 三慧会 IVF 大阪クリニック
○田邊 加代子 小松原 千暁 福田 愛作

I. 諸言

A 院では、2009 年より長期不妊治療患者（A 院での長期とは 2 年と定義）を対象とした茶話会を定期開催し、患者の悩みや不安を表出する機会を提供している。本実践報告では、治療終結を検討している長期不妊患者への支援として予期不安緩和を目的とし、茶話会参加者である元長期不妊治療患者の体験談を含めた「治療終結を考えているあなたへ」のパンフレット作成過程を報告する。

II. 実践内容

1. パンフレットの構成検討は、茶話会での参加者の反応や話題から治療終結後の生活に焦点をあて、医師、不妊症看護認定看護師、生殖医療相談士、臨床心理士にて実施した。
2. 元長期不妊患者の体験談は、2009 年 8 月の初回茶話会参加者 5 名中 3 名に、主旨を口頭で説明し、治療終結前後の実際の感情と終結後の価値観および治療中の方へのメッセージ等の回答を郵送で返信するよう依頼した。倫理的配慮は、依頼の目的、個人情報保護、回答は自由意志であることを文書で説明し、返送をもって同意を得たとした。

III. 結果

本パンフレットは、治療終結へのプロセスとして①治療への労い②自己努力を褒め・認めることの大切さ③不妊治療後の生活④女性の健康管理⑤パートナーとの関係性⑥人生の再構築の 6 項目の内容で構成した。体験談は 3 名中 2 名から回答があり、治療終結前後の感情は「受精卵が育たなくなり、治療の難しさを感じ始めた」「やれるだけのことは精一杯やった」「ふたりの生活もよいのではないか」であり、終結後の現在の価値観は「こういう人生の楽しみ方もある。悲喜こもごも大切な思い出」「たとえ治療を終えても夫と私の子どもに会いたい気持ちは変わらない」等であり、治療終結へ至る過程や自己の受容、価値観の変化を肯定的に捉え、現在の生活や夫婦の存在価値に触れる内容が記述されていた。その結果、「治療終結を考えているあなたへ」パンフレットは B4 サイズ 14 頁数となった。

IV. 考察

長期不妊患者の予期不安緩和を目的に A 院独自のパンフレット作成過程において、元患者は体験談を記述する事により、治療終結から現在に至るまでを振り返り、気持ちを整理し、不妊であった自己を受容できる機会となったのではないかと考える。貴重な体験談を含む本パンフレットの意義や効果の検討はこれから実施する必要がある。今回の体験談では身体面への予期不安は記述されていなかったが、治療中から健康セルフケアの情報提供することで患者自身に意識付けができると考える。

V. 今後の課題

本パンフレットを誰もが自由に手にとれることで、治療終結後のイメージができ、意思決定支援に役立つよう、待合室等に設置し、パンフレット設置の意義や効果、内容についても記述式アンケート調査を実施していきたい。